

「作左の会」に思う」と

山田 靖

平成九年四月、六ツ美西部学区が産声を揚げた。「作左の会」は郷土の英雄、本多作左衛門の生誕地を起爆剤に、町興しを図ろうと、平成十一年十二月に総代会が中心となり発足した。発足式当日、会場には期待と高揚感が満ち溢れ、盛大に行われたと記憶している。以来十七年間に亘り、ゆかりの地の視察、講演会、二度にわたる郷土史の編纂、俳句・短歌の募集表彰等多様な行事を行い、地元の活性化に向け大きな成果を収めてきたと思う。

しかし、これまですべてが順風満帆であったわけではない。政治色が強すぎて

反感を買ったり、会員の激減など幾多の存続危機があった。しかし、会長職の



発足会に集まった多くの方（平成 11 年 12 月 26 日）

専任化など組織の見直し、企業会員の増加策等努力を重ね存続危機を乗り切つ

て来た。その陰には常に総代会の必至の努力があったからだと思う。

地域の歴史ロマンを訪ね、多くの人が集うこの会は、地域の絆の醸成には最適な団体で、今後も更に発展させ学区の輪を広げて欲しいものだ。

その為には、常に総代会（総代OBを含む）の力が欠かせないと思う。



丸岡城にて（平成 28 年 6 月 11 日）